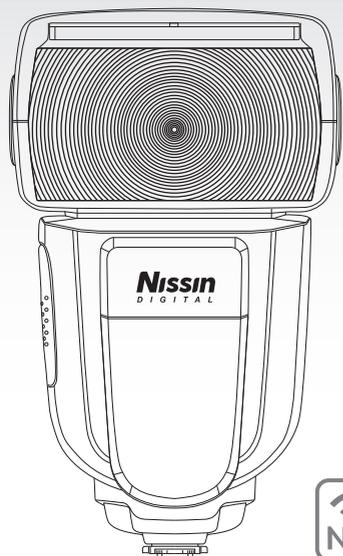


ソニー製 デジタルカメラ用

## 取扱説明書

## INSTRUCTION MANUAL



Nissin Di700Aをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

Di700Aは、ソニー製デジタルカメラのデジタルTTL方式に対応するデジタルストロボです。本機をカメラに装着するだけで、カメラからの通信により自動的に光をコントロールすることができます。

また、本機はスレーブおよびワイヤレスTTLリモート（電波式／光学式）を搭載しており、カメラから離れた場所でシンク口させることができ、ライティングの幅を大きく広げることができます。

ご使用にあたっては、この取扱説明書をよくお読みになり、内容をご理解の上、正しくご使用いただけますようお願いいたします。

 ニッシンエアシステム(NAS)はニッシンストロボとニッシンコマンド専用設計されたシステムです。

## 安全上のご注意 ■必ずお守りください。

ご使用になる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止する為、お守り頂くことの説明をしています。よくお読みになり取扱いにご注意ください。

	<b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電したり、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずお守りください。
	<b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。必ずお守りください。

### 警告

- 本機は高電圧の部品を使用していますので、絶対に分解しないでください。修理の場合は、弊社サービスステーションかまたは、ご購入されたお店にお持ちください。
- 落としたり、破損したりした場合、または機器の中に物体が落ち込んだ場合には、絶対に露出部分に触れないでください。
- 人の目の前（特に乳幼児）に近づけて発光しないでください。目の近くで発光させると、視力障害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する場合は1m以上離れてください。
- コップ、化粧品、薬品の入った容器のそばで使用しないでください。こぼれたり、機器の中に入った場合は、火災、感電または傷害の原因になります。
- 本機は防水ではないので、雨がかかる場所や、湿度の高い場所に置かないでください。
- 自動車など40℃を超えるような高温になる場所に放置しないでください。
- 可燃性ガスおよび爆発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所で使用しないでください。

### 注意

- 電池を高熱にさらさないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 不安定な場所で本機を使用しないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりすることにより怪我の原因となる場合があります。

### その他の注意

- ベンジンやシンナー、アルコールなどで本機を拭かないでください。変色や変形の原因となります。汚れのひどいときは柔らかい布で乾拭きしてください。
- 本機を長期間使用しない場合は、電池を抜いて保管してください。

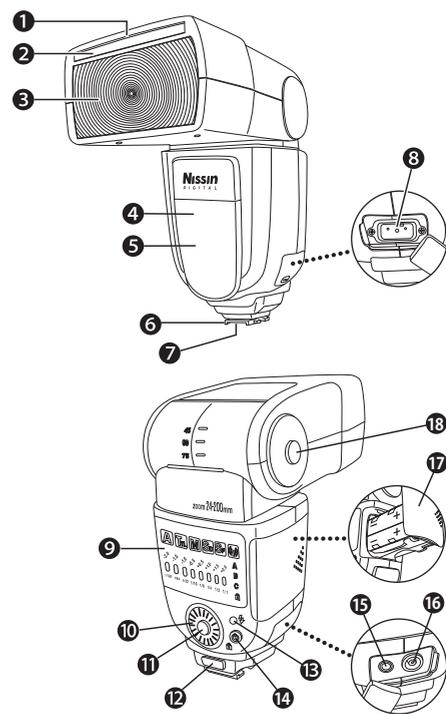
## ■Di700Aの特徴

Di700Aは、設定が素早く行えるセレクトダイヤルを採用しているのが特徴です。指一本で軽快に操作が行えます。

- 対応カメラについては、弊社ホームページでご確認ください。

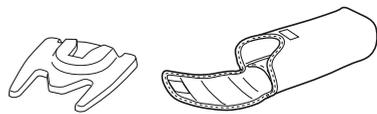
<http://www.nissin-japan.com>

## ■各部名称



- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| ① キャッチライトパネル  | ⑩ セレクトダイヤル           |
| ② ワイドパネル      | ⑪ セットボタン             |
| ③ 発光部         | ⑫ シューロック／ロック解除ボタン    |
| ④ スレーブセンサー    | ⑬ パイロットランプ(テスト発光ボタン) |
| ⑤ オートフォーカス補助光 | ⑭ 電源ボタン(操作ロックボタン)    |
| ⑥ 取り付け足       | ⑮ ストロボ増設端子           |
| ⑦ シュー接点ピン     | ⑯ シンク口端子             |
| ⑧ 外部電源用ソケット   | ⑰ バッテリーマガジン BM-02    |
| ⑨ カラーディスプレイ   | ⑱ ヘッド回転ロックボタン        |

付属品:



ミニスタンド

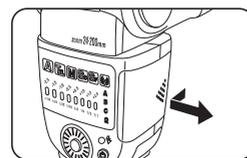
ソフトケース

## ■基本操作

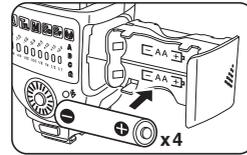
- 注意** ストロボ発光部の発熱や劣化を防止するため、連続発光は20回までに抑えてください。また、20回連続発光したあとは、10分以上休止してください。

### 電池の挿入

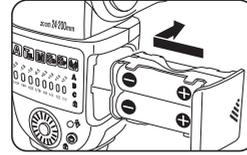
- 電池カバーを後ろにスライドしてバッテリーマガジンを引き出します。



- 電池ボックス内の+/-のマークに従って、電池を正しく挿入してください。



- バッテリーマガジンを挿入し、前にスライドして閉めてください。

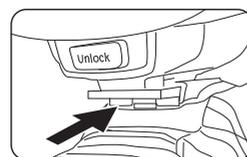


### 注意

- 間違った挿入を行ったり、サイズの異なる電池を入れたりすると本機が破損する恐れがあります。
- すべて同じ銘柄の新品の電池をご使用ください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形ニッケド電池、ニッケル水素電池、リチウム電池もご使用できます。
- 使用しない時は電池を抜いて保管してください。

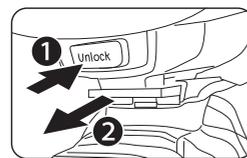
### カメラに装着する

1. Di700Aの取付足をカメラのホットシューに挿入します。
2. ロックピンにより固定されるまで、しっかり奥まで差ししてください。



### カメラから取り外す

- ① [Unlock] (ロック解除ボタン) を押しながら、② 取付足を引き抜きます。



- 注意** ●装着する前や取り外す前には、必ずDi700Aの電源とカメラの電源を切ってください。

### ストロボの電源を入れる

- 「電源ボタン」を押すと電源が入り、パイロットランプが赤色に点灯し充電を開始します。
- パイロットランプが緑色になると充電完了です。
- テスト発光を行う場合は、パイロットランプを押してください。
- 電源を手動で切る場合は、「電源ボタン」を1秒以上押し続けてください。



### 省電力モード

本機は、電池の消耗を防ぐために、省電力モードを備えています。

A、TTL、Mモードの時はアイドル状態から2分後に、SD、SF、ワイヤレスTTLモードの時はアイドル状態から5分後にスタンバイモードに入ります。スタンバイモードの時は、パイロットランプが2秒毎に点滅します。本機を復帰させるには、カメラのシャッターボタンを半押しするかまたは、本機のどれかのボタンを押してください。本機の操作を60分間行わなかった場合は電源OFFになります。この場合は、再度電源を入れなおしてください。

## メニュー画面について

電源を入れるとメニュー画面の表示は出荷時の初期設定で[A]フルオートモードになっていますので、一度セットボタンを押して、メニュー一覧表示にしてからダイヤルを回してモードを選んでください。



- A** … フルオートモード 発光量が自動的に調節されます。初心者の方にお勧めのモードです。
- TTL** … TTL自動調光モード 発光量が自動的に調節されます。調光補正による微調節ができます。
- M** … 手動設定モード 発光量を手動で調節できます。
- SD** … デジタルスレーブ プリ発光キャンセル機能付きスレーブ(TTL対応型)
- SF** … アナログ(フィルム)スレーブ 単発発光用スレーブ(従来型)
-  … 光学式ワイヤレスTTLスレーブ 光学式システムのマスターユニット(ストロボ)からTTL/マニュアル制御できます。
- 電波式ワイヤレスTTLスレーブ(NAS)** NASのマスターユニットからTTL/マニュアル制御できます。 ※マスター機能について詳しくはNASコマンドの取扱説明書を御覧ください。

## ■Di700Aのモードと機能

### A フルオートモード

カメラの撮影モードが[AUTO]、[P]、[A]、[S]、[M]の時に、ADI/P-TTL自動調光を行うことができます。

本機をAモードにセットした時、上記のカメラモードでTTL自動調光システムが連動します。フルオートモードは、ほとんどの操作をカメラ側で行うことができる、初心者向けのモードです。

- セットボタン押し、セレクトダイヤルを回してAモードを選び、セットボタンを押して決定します。
- これで、Aモードの設定は完了です。
- シャッターボタンを半押しして、被写体に焦点を合わせます。
- カメラのビューファインダーにシャッター速度、絞り、フラッシュマークが表示されます。
- シャッターボタンを押して撮影します。本機が発光し、カメラの液晶画面に撮影画像が表示されます。
- レンズ焦点距離を変えると、本機の発光ヘッド内のユニットが自動で移動し、その焦点距離を効率よくカバーします。(24～200mm以上をカバー)

### TTL TTL自動調光モード

TTLモードでは自動で最適な露出を得ることができますが、任意で調光補正機能を使った微調整を行うことも出来ます。本機は、セレクトダイヤルにより素早く確実な調光補正が行えますので、とても便利です。

カメラの撮影モードが[AUTO]、[P]、[A]、[S]、[M]の時に、ADI/P-TTL自動調光を行うことができます。

- セットボタン押し、セレクトダイヤルを回してTTLモードを選び、セットボタンを押して決定します。
- これで、TTLモードにセットされました。
- 調光補正を行う場合は、セレクトダイヤルを回します。
- 時計回りに回すと+EV補正になります。反時計回りに回すと-EV補正になります。
- 補正値は-2.0EV～+2.0EVまで0.5EV刻みで調節出来ます。LEDが点灯しない状態は0.0EVになります。
- シャッターボタンを半押しして、被写体に焦点を合わせます。
- カメラのビューファインダーにシャッター速度、絞り、フラッシュマークが表示されます。
- カメラによっては、カメラ側から調光補正を行うことができます。(詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。) また、ストロボ、カメラ、両方の調光補正がセットされている場合は、両方の補正値が合算されます。
- 本機のディスプレイには、本機でセットした補正値のみが表示されます。(カメラ側の調光補正値は反映されません。)

## M マニュアルモード

マニュアルモードでは、発光量を手動で調節することができます。発光量は、1/1 から 1/128 まで 1.0EV 刻みで8段階の調節を行うことができます。

●セツボタンを押し、セレクトダイヤルを回して M モードを選び、セツボタンを押して決定します。

●これで、M モードにセツされました。

●セレクトダイヤルを回し発光量をセツします。発光量は左から順に大きくなります。

●シャッターボタンを押して撮影します。本機が発光し、カメラの液晶画面に撮影画像が表示されます。

●撮影画像の露出を確認し、最適な露出が得られない場合は、発光量を調節します。

## SD SF (i) ワイヤレスモード

Di700Aは、ワイヤレス同調を行うことが出来ます。この機能は、マルチライティングによるクリエイティブなストロボ撮影を可能にします。Di700Aのワイヤレス機能には3つのモードがあります。

**SD:デジタルスレーブ**  
デジタル一眼レフカメラのプリ発光を伴ったTTL調光システムにワイヤレス同調します。発光レベルは8段階あります。

**SF:アナログスレーブ**  
フィルム一眼レフカメラや、スタジオストロボなど単発発光のストロボに同調します。発光レベルは8段階あります。

**(i):光学式ワイヤレスTTLスレーブ**  
光学式システムのマスターユニット(ストロボ)からTTL/マニュアル制御できます。

**電波式ワイヤレスTTLスレーブ(NAS)**  
NASのマスターユニットからTTL/マニュアル制御できます。

※マスター機能について詳しくはNASコマンドの取扱説明書を御覧ください。

### マスターストロボの設定

マスターストロボをカメラに装着し、電源を入れます。内蔵ストロボの場合は、ポップアップして、発光可能な状態にします。

## 各ワイヤレス機能の設定

### SD/SFモード

●マスターストロボが TTL の時は SD に、マニュアルの時は SF にセツします。

●セツボタンを押し、セレクトダイヤルを回して SD モードまたは SF モードを選び、セツボタンを押して決定します。

●これで、SD または SF モードにセツされました。

●セレクトダイヤルを回し発光量をセツします。発光量は左から順に大きくなります。

●シャッターボタンを押して撮影します。本機が発光し、カメラの液晶画面に撮影画像が表示されます。

●撮影画像の露出を確認し、最適な露出が得られない場合は、発光量を調節します。

### 光学式ワイヤレスTTLスレーブ

- セツボタンを押すと選択されているモードが点滅します。
- セレクトダイヤルを回して「(i)」を選びます。

3. セツボタンを押すとモードが決定します。

4. 次にセレクトダイヤルを回してグループを選びます。

5. RMT-TTL はグループ A、RMT2-TTL はグループ B、RMT-M はグループ C となります。

6. セツボタンを押すとグループが決定します。

7. マスターユニットにより Di700A を遠隔操作します。

### マスターストロボとして使用できるもの

●光学式ワイヤレスTTLマスター機能付き純正ストロボ

### 電波式ワイヤレスTTLスレーブ(NAS)

- NAS コマンドー(Air1)の電源をオンにします。
- Di700A のセツボタンを押すと選択されているモードが点滅します。 (i)
- セレクトダイヤルを回して「」を選びます。
- セツボタンを押すとモードが決定します。
- 次にセレクトダイヤルを回してグループを選びます。
- セツボタンを押すとグループが決定します。
- NAS コマンドーにより Di700A を遠隔操作します。(詳しくは NAS コマンドーの取扱説明書を御覧ください)

### マスターストロボとして使用できるもの

●NAS(Nissin Air System)コマンドー Air1

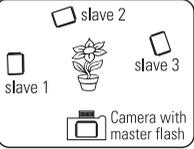
※スレーブユニットと異なるタイプでも使用できます。

## ■撮影方法

《光学式ワイヤレスTTLスレーブ》の場合は、カメラの内蔵ストロボまたは、接続されている外付けストロボ(マスターストロボ)を発光可能な状態にします。

《電波式ワイヤレスTTLスレーブ[NAS]》の場合は、NASマスターユニット(Air1)をカメラに取付けて電源をオンにします。

- スレーブストロボ(Di700A)を任意の場所に設置します。
- マスターストロボのテスト発光を行い、スレーブストロボの同調を確認します。
- スレーブストロボが同調すれば、撮影可能になります。



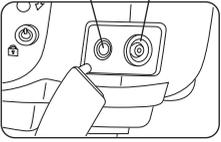
※被写体の周辺に設置できるストロボの数に制限はありません。  
※スレーブ時オートパワーオフ機能により60分後に電源オフになります。  
※スレーブ時はスタンバイモードには切り替わりません。  
※スレーブ時は、照射角は35mmに固定されます。  
※Di700Aの設置場所によっては、スレーブ同調しない場合があります。  
※金属製のアクセサリーシューにDi700Aを取り付けると発光しない場合がありますので、ご注意ください。

### 外部端子

#### ●ストロボ増設用ソケット

市販の3.5mmφミニジャック付きシンクロコードを使用し、本機に、シンクロ端子付きストロボを増設できます。本機のモードは、M(マニュアル)にセツしてください。

ストロボ増設用ソケット  
シンクロ端子



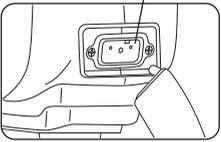
#### ●シンクロ端子

市販のシンクロコード(オス/オス)により、本機とカメラのX接点を接続することができます。また、市販のスレーブユニットも接続できます。本機のモードは、M(マニュアル)にセツしてください。

#### ●外部電源用ソケット

本機は、外部電源用ソケットを装備しており、別売のストロボ用外部電源を装着することができます。外部電源装着中は、本機の単3電池も使用致しますので、取り外さないでください。

外部電源用ソケット



### 過熱防止機能について

本機は連続発光(フル発光の場合20~30回)により発光部が高温になると、過熱防止機能が働き、安全のために発光を停止します。過熱防止機能が働くとパイロットランプが1.5秒ごとに赤色点滅します。約15分くらい経過すると、温度が低下し発光可能な状態になります。

## ■ストロボ撮影をより楽しむために

### ワイドパネル

- 内蔵のワイドパネルを引き出して、図のように発光部の前に被せると、16mm相当の撮影画角に対応できます。
- 同時にキャッチライトパネルが引き出されますが、キャッチライトパネルは、押し戻してください。

**注意** バウンス使用時には、ワイドパネルを収納してください。

**参考** ワイドパネルは光を拡散させる効果もありますので、ストロボ光をソフトにしたいときなどにもご利用できます。

### キャッチライトパネル

バウンス撮影時、近距離でキャッチライトパネルを使用すると、被写体の人物の目に光が差し込み、表情が明るくなります。

- ワイドパネルを引き出すとキャッチライトパネルも一緒に引き出されますので、ワイドパネルを押し戻してください。
- キャッチライトパネル使用時は、上方90°にバウンスさせていただきます。

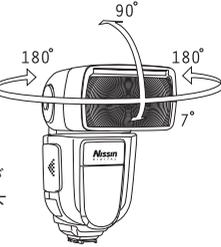


### バウンス

主に屋内で、天井や壁などにストロボ光を反射させてバウンス撮影を行うと、被写体の不自然な影を和らげ、自然な感じになります。

●ヘッド回転ロックボタンを押しながら、フラッシュヘッドを手動で上下左右方向に向きを変えます。

●ヘッドは、上方に90°、下方に7°、左に180°、右に180°回転します。



**注意** ●バウンス時、照射角は50mm相当に固定されます。

●天井、壁までの距離が離れているときは、ストロボ光が十分に反射せず、効果を得られない場合があります。

●天井や、壁の色が白でない場合は、反射光が影響を受けて着色する場合があります。

●バウンス時は、光が減衰します。効果が十分得られない場合は、カメラのISO感度を上げて撮影を行ってください。

### オートフォーカス補助光

低コントラストの被写体や、暗所で撮影を行う場合、オートフォーカス補助光を被写体に自動的に照射し、合焦しやすくします。照射された赤色光は、撮影画像には写りません。

### FELロック

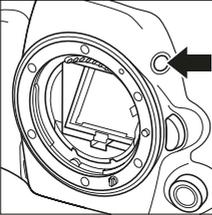
背景と被写体の明るさが極端に異なる場合や、被写体が画面の中央部から外れているときなど、ストロボの自動調光が意図しない露光量に設定されることがあります。そのような時は、FELロックにより任意の部分の露出に合わせて調光させることができます。

●被写体にピントを合わせます。

●被写体を中央に置き、カメラのFELボタンを押します。

●プリ発光を行い露光量が記憶されます。

●撮影アングルを決め、シャッターを押します。



**注意** FEL は、P、A、S、M モードで機能します。

### ハイスピードシンクロ(HSS)

Di700A は 1/8,000 秒のシャッター速度まで同調するハイスピードシンクロに対応しています。ハイスピードシンクロは、A、TTL、M モード、(i) モードで使用できます。HSS を有効にするには、ストロボのパイロットランプを 3 秒間長押ししてください。HSS モードが有効になっている時は、パイロットランプが点滅します。HSS を解除する場合は、パイロットランプを長押ししてください。※バウンス時は HSS 機能が無効になります。HSS を利用する時は発光ヘッドを正面に向けてください。(詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください)

**注意** ハイスピードシンクロモード設定時は、通常の発光より多くのエネルギーを使用しますので、発光管が破損ないように充電時間を7秒間隔に制限しております。

### その他の機能

#### スローシンクロ

被写体と背景を両方とも適正露出で撮影するために、スローシャッターで、フラッシュ発光させることが出来ます。詳しくは、カメラの使用説明書をご覧ください。



#### 後幕シンクロ

通常は、カメラのシャッター幕が開いた瞬間にストロボが発光する先幕シンクロによる発光を行いますが、カメラを後幕シンクロに設定すると、シャッター幕が閉じる直前にストロボ発光することが出来ます。これにより、動いている被写体の軌跡を自然に表現することが出来ます。



※スローシンクロ、後幕シンクロは本機をカメラに装着した場合にのみ利用できます。光学式、電波式ワイヤレスTTLスレーブ時は、スローシンクロ、後幕シンクロは利用できません。

#### 参考

#### ●ストロボの照射角について

照射角は24mm相当から200mm相当まで運動します。24mm相当より広角の焦点距離をご使用の場合は、内蔵ワイドパネル(16mm相当)をご利用ください。200mm相当より望遠側の焦点距離をご使用の場合は、200mm相当の照射角でカバーできます。※照射角は、便宜上35mmフィルム用レンズの焦点距離を基準にしています。

#### ●撮影距離について

ストロボを使用しても撮影画像が暗い場合は、被写体に近づいて撮影するかまたは、カメラのISO感度を上げてください。

## ■主な仕様

使用カメラ	ソニー製デジタルカメラ
ガイドナンバー	54 (ISO100、照射角200mm相当のとき) 48 (ISO100、照射角105mm相当のとき)
照射角	24~200mm以上 (内蔵ワイドパネル:16mm) オートパワーズームによりレンズ焦点距離に自動で連動 Air1 使用時はAir1からの操作により、マニュアルズームができます。
電源	単3形アルカリ乾電池4本使用(電池別売) ※単3形ニッケル水素電池、単3形リチウム電池、単3形オキシライド乾電池使用可能
電池収納方式	クイックローディングシステム(BM-02)
発光回数	200~1500回(アルカリ乾電池の場合) ※使用モードにより異なります。
節電機能	A、TTL、Mモードの時はアイドル状態から2分後に、SD、SF、ワイヤレスTTLモードの時はアイドル状態から5分後にスタンバイモード。無操作から60分後に電源OFF。
充電時間	約0.1~4秒(ニッケル水素電池、アルカリ乾電池)
調光方式	ADI/P-TTL/マニュアル
ロック方式	FELロック FELロックボタンによる
AF補助光	有効距離0.7~6m
色温度	約5,600K
閃光時間	1/800(マニュアルモード/フル発光)、 1/800~1/30000秒(TTLモード)
ワイヤレス発光	<b>SD:</b> デジタルスレーブ… FULL~1/128、1EVステップ <b>SF:</b> アナログスレーブ… FULL~1/128、1EVステップ <b>(i):</b> 光学式ワイヤレスTTLスレーブ… A/B/Cグループ、チャンネル共通 電波式ワイヤレスTTLスレーブ… A/B/Cグループ、コマンダーAir1とのペアリングにより固有IDが設定される。
大きさ	約75(幅)x140(高さ)x115(奥行)mm
質量	約381g(電池除く)

※製品の仕様は、改良などにより予告なく変更することがあります。

## ■ガイドナンバーテーブル (ISO 100)

焦点距離	パワーレベル							
	Full	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
24mm	22	15	11	8	5	4	3	2
28mm	25	18	13	9	6	4	3	2
35mm	28	20	14	10	7	5	4	3
50mm	32	22	16	11	8	6	4	3
70mm	41	29	21	15	10	7	5	4
85mm	47	33	23	16	12	8	6	4
105mm	48	34	24	17	12	9	6	4
135mm	49	35	25	17	12	9	6	4
200mm	54	38	27	19	14	10	7	5

## ■トラブルシューティング

### ストロボがチャージしない。 \_\_\_\_\_

- 電池の向きを確かめて、逆向きになっている場合は、正しく挿入してください。
- 電池が消耗していないか確認して、消耗している場合は、新しい電池を入れてください。

### ストロボが発光しない。 \_\_\_\_\_

- ストロボがカメラにしっかり固定されていない場合は、奥までしっかり装着して、ロックリングで固定してください。
- ホットシュー接点汚れている場合は、接点を乾いた布で拭いてください。
- オートパワーオフ機能により電源OFFになっている場合は、電源を入れなおしてください。

### 写真が露出オーバーまたは、アンダーになる。 \_\_\_\_\_

- 被写体の近くに反射物などがあって、正常に調光されない場合は、FEロック機能を使用してください。
- モードを確認してマニュアルモードになっている場合は、<TTL>モードに設定してください。

### 電源が切れぬい。 \_\_\_\_\_

- スリープ時に電源ボタンを押してもOFFになりません。一度ボタンを押して、通常モードに復帰してから電源ボタンを約3秒押しすとOFFになります。

★最新カメラへのファームウェアアップデート サービス(有償) やファームウェア対応状況に関するお問い合わせは、ニッシンホームページ、または、お問い合わせ窓口をご利用ください。

ホームページ: [www.nissin-japan.com](http://www.nissin-japan.com)  
TEL. 050-3736-7756